

本時のねらい

図形を動かしたり、回したり、反転させたりすることによって、「合同」であることの意味を理解する。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

- ・プレゼンテーションソフト（Keynote）を利用することによって、個人の端末で図形を動かしたり、回したり、裏返したりすることができる。
- ・図形が重なった時に色が変わるように透明度を調整することで、視覚的にもわかりやすく、合同の意味をわかりやすく理解することができる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・タブレット PC（iPad）
- ・授業支援ソフト（ロイロノート）
- ・電子黒板
- ・プレゼンテーションソフト（Keynote）

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○7つの図形の中で、形も大きさも同じ図形はどれですか」という問題を提示し、本時のめあて「図形を動かして、ぴったり重なり合う図形を見つけよう」を共有する。 ○図形を見て、重なり合う図形を予想する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・問題を電子黒板に提示する。 ・見た目ではどれがあてはまるかわからないので、図形を動かしてあてはめるように促す。
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ○全体で、図形を動かしたり、回したり、反転することで、あてはめられることを確認する。 ○Keynoteで図形を動かさせながら、ぴったりと重なり合う図形を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・図形の重なりをわかりやすくするために、不透明度の設定を調整しておくことで、図形を重ねた時に、重ねた部分の色が変わり、視覚的にもわかりやすいものにする。 ・ClassroomでKeynoteの図形のデータを配布し、図形を動かしたり、回したり、反転させたりする機能を使って、問題を解決させる。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○合同の意味をまとめる。 ○ふりかえりを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ふりかえりをロイロノートで提出する。

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：電子黒板に図形を提示し、タブレットを使って実際に図形を動かす場面



写真2：図形にぴったりあてはまるように、図形を動かしたり、回転させたり、反転させたりしている場面



写真3：図形があてはめにくいときに、ズームにすることであてはめやすくなることを試している場面

児童生徒の反応や変容

- ・紙で切って重ねるよりも、色がついていて、タブレットで操作ができることで最初の取りかかりはよかった。
- ・タブレットで行うことで「まわす」「動かす」「反転する」操作を一つずつ押さえることができた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

ICTを活用することによって、図形と図形が重なる時に、ぴったり重なる感覚が気うまく表現できるため、合同な図形の定義の理解や、タブレットの操作感覚を養うことができる。図形の設定で透明度を下げると、重ねた際の色がわかりやすく、視覚的にも合同かどうかのわかりやすい。